



アジア9カ国の大学生が「里山、私たちの未来のコモンズ」について討議します。

## 第10回「アジア学生交流環境フォーラム」をオンラインで開催

公益財団法人イオン環境財団（以下、当財団 理事長 岡田元也イオン株式会社取締役兼代表執行役会長）は、8月2日（火）から4日（木）の3日間、第10回「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP: Asian Students Environment Platform）以下、本フォーラム）」をオンラインにて開催します。

本フォーラムは、当財団と国連環境計画生物多様性事務局との合意に基づいて実施されており、今年で10回目を迎えます。

日本を含むアジア各国の大学生・大学院生が、英語を共通言語として、各国の自然環境や歴史、文化、価値観の違いなどを学びながら、地球環境問題について討議を行います。このことを通じて、グローバルなステージで活躍する環境分野での人材育成を目指しています。これまでに10カ国679名の大学生が参加しました。

本年は、昨年へ続きオンライン開催とし、9カ国9大学91名の学生がリモートで参加します。幹事校である早稲田大学が、AEON TOWAリサーチセンター（※）の協力のもとプログラムを企画しました。学生は、「里山、私たちの未来のコモンズ」をテーマとするさまざまな視点からの講演を受講し、多国籍で構成した10チームに分かれてグループディスカッションを行います。最終日には、各チームの議論の成果について参加者全員で共有を行って、教授陣の指導を受けます。

当財団は今後も、ひとつしかない地球を守るため、環境教育をはじめとする環境活動に積極的に取り組んでまいります。

（※）2020年に当財団と早稲田大学が連携して設立した機関です。環境をはじめとした地域課題への対応や人材育成など、新たな価値を創造することで、持続可能な社会の実現を目指しています。

### 記

1. 期 間： 8月2日（火）～4日（木）（オンライン開催）
2. 主 催： 公益財団法人イオン環境財団
3. 幹 事 校： 早稲田大学（日本）
4. 参 加 校： インドネシア大学（インドネシア）、王立プノンペン大学（カンボジア）、清華大学（中国）、早稲田大学（日本）、マラヤ大学（マレーシア）、高麗大学校（韓国）、フィリピン大学（フィリピン）、チュラロンコン大学（タイ）、ベトナム国家大学ハノイ校（ベトナム）の9校
5. 後 援： 外務省
6. 出席者（予定）  
開 講 式： 駐日カンボジア王国 特命全権大使 トウイ・リー 閣下  
早稲田大学 総長 田中 愛治 様  
公益財団法人イオン環境財団 専務理事 山本 百合子 様  
閉 講 式： 早稲田大学 国際担当理事/社会科学総合学術院・教授 弦間 正彦 様
7. 主なプログラム： 8月2日（火）開講式・基調講演・グループワーク  
8月3日（水）講演・グループワーク  
8月4日（木）成果発表・閉講式

以 上

## ご参考

### 【公益財団法人イオン環境財団 概要】

1990年「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、岡田卓也（イオン株式会社名誉会長相談役）により、日本で初めて地球環境をテーマにした企業単独の財団法人として設立されました。

設立以来、国内外の多様なステークホルダーの皆さまと連携し、植樹を主な事業として、環境活動に積極的に取り組む非営利団体への助成や、環境人材の育成を目指した環境教育など様々な活動を実施してきました。今後は持続可能な地域の実現を目的に各事業をさらに進化させ、地域の皆さまと協働して森づくりに加え、地域づくり人づくりにも取り組み、新たな「イオンの里山」の構築を目指します。

＜ホームページ <https://www.aeon.info/ef/>>

### 【植樹活動】

国内外の地域行政と協力し、自然災害や伐採などで荒廃した森の再生を目的に、アジアを中心に各地のボランティアの皆さまとともに植樹活動を継続実施してまいりました。これまでに世界11か国で植樹を行い、イオン全体の累計植樹本数は1,241万本を越えました。

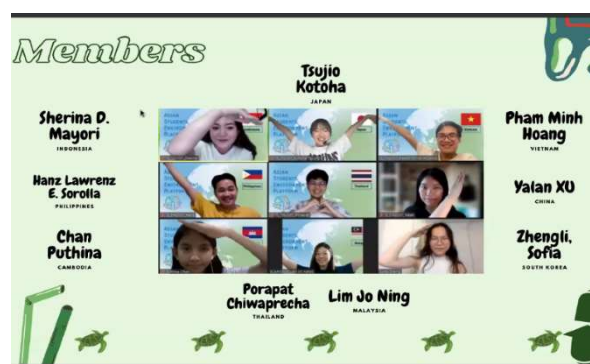
（2022年2月末時点）

### 【過去のアジア学生交流環境フォーラム（ASEP）】

回数	開催年	開催国	テーマ
第1回	2012年	日本	文化から環境を考える
第2回	2013年	韓国	環境と人間
第3回	2014年	中国	水と人
第4回	2015年	ベトナム	生物多様性と人
第5回	2016年	日本	生物多様性と叡智（えいち）
第6回	2017年	日本	生物多様性と再生
第7回	2018年	マレーシア	熱帯雨林からの贈りもの
第8回	2019年	カンボジア	持続可能な平和構築
第9回	2021年	インドネシア（オンライン）	循環型社会の構築



第1回（2012年：日本）



第9回（2021年：インドネシア・オンライン）